

## 1 学校課題

本校は、山梨県の北東部、甲府盆地の北部にある山梨市に位置し、緑豊かな自然環境と肥沃な土地に恵まれ、桃やぶどうなどの果樹栽培を中心とした農業が盛んな地域である。

本校の児童は、明るく素直な子ども達である。児童会活動・学校行事などの体験学習には、真面目に一生懸命取り組んでいる。縦割り班の活動を中心に、上級生が下級生の面倒をよく見ており、そのことが次の学年に自然に引き継がれている。指示された課題に一生懸命取り組むが、反面自ら主体的に考えて行動する姿勢が弱い。また、授業の中で自分の考えに確信が持てないこと、教師には自分の考えが言えるが、子ども同士で考えを出し合い、深め合うといった学び合いができていないことが課題であった。

このような児童の実態から、場面設定を工夫していく事が、学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成に有効であると考え、昨年度までの3年間、研究を進めてきた。また、確かな学力の育成、落ち着いた学習習慣の確立に向け、学習規律の徹底や家庭学習への取り組み等における指導の工夫を再認識し、全校体制で実践してきた。その結果、一人ひとりが自信を持って自分の考えを発表する姿や、互いの考えを交流させながら共通点・相違点に目を向けたり、新たな考えを練り上げたりする姿が見られるようになり、子ども同士の学び合いの場に変容が表れてきた。

## 2 研究主題

「学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成」  
～子ども同士の対話的コミュニケーション活動を通して～

## 3 主題設定の理由

近年、知識基盤社会の到来やグローバル化の進展など急速に社会が変化する中、変化に対応する能力や資質が一層求められている。また、国内外の学力調査結果などから、わが国の子ども達には、思考力・判断力・表現力等に課題が見られることが明らかである。現行の学習指導要領では、基本的な考え方として「生きる力」という理念の共有をはじめ6つの項目が掲げられている。その中に、思考力・判断力・表現力の育成があり、これらの力を育むためにも言語活動の充実が強調されている。学力は、対話的な活動やコミュニケーションなどのつながりから形成され、子ども自身が疑問に思ったり考えたり、挑戦したりする課程を通じて身に付いていく。学校生活で、意識的に言語活動やコミュニケーションが育つ集団づくりをすることによって、学力が身についていくであろう。

これらの今日的課題と本校の教育目標である「基本的習慣を身につけ、自らの意志で学び、心豊かにたくましく生きる子ども」の具現化を考えると、まさに言語活動を通じて積極的に学び合い、思考し、高め合う子どもの育成が求められていると言える。

3年間研究を進める中で、学び合う授業の前提として、「みんなで聴き合う」「みんなで認め合う」学級集団づくりが大切であることも明らかになった。子どもたちが、自分の考えを安心して表出するためには、それを支える「聴き合う学級集団」が存在しなくてはならない。また、学習意欲を高め学び続けるためには、「認め合う学級集団」でなくてはならない。授業を通して学級づくりをすることは当然だが、学級活動、さらに学校生活全体を通して意図的・計画的・継続的に学び合う集団づくりを推進していく必要がある。聴く力を高めることは、コミュニケーション活動を円滑に進める上でも考えを深め合う上でも重要な要素である。

昨年度実施したコミュニケーションアンケート結果から、数値に本研究の効果が表れていたり、コミュニケーション活動に対する児童の意欲・意識の向上を見取る

ことができたりした。また、昨年度は新たに学級力向上プロジェクトや算数科の活用学習の取り組みを研究の中に取り入れ、子ども達の学力向上に向けた授業の工夫を意識的に行うことができた。

そこで本年度は、本研究テーマの最終の年として、今まで積み重ねてきた学校生活全体における言語活動＝対話的コミュニケーション活動の定着を図りたい。共に学び合い高め合う子どもの育成を進めるとともに、学級づくりのための効果的な取り組みや、対話的コミュニケーション活動を学力向上につなげていきたい。

#### 4 研究の具体的内容と方法

##### (1) 研究の内容

ア 対話的コミュニケーション活動を取り入れる取り組み

- ・実践カードの活用及び実践の開発をする。
- ・全教育活動での場や方法，内容を工夫する。
- ・算数科の活用問題への取り組みを行う。
- ・実践を公開し合い，授業力を高める。

イ 学習環境づくり

- ・学習習慣の確立…学習規律（まきーのたね）の徹底
- ・学級力づくり…Q-Uテストの活用，学級力向上プロジェクトの活用
- ・さわやかタイムや放課後等の有効活用，家庭学習の充実

##### (2) 研究の方法

ア 基本的には全体会での研究を行うが，内容によってはブロック（低学年高学年）に分かれて研究を深める。

イ コミュニケーションアンケートを実施し，児童の実態を把握する。

ウ 学校生活全体を通して，対話的コミュニケーション活動に取り組む。

エ 研究授業を1本行う。（指導主事招聘）

オ 一人一実践の授業公開を行う。（ブロック内で参観し合う。）

#### 5 年間研修計画

研究主任 倉田 和美

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
研究主題等全体計画		研究主任		4月	
統合作業		各部会責任者		4月	
統合作業		各部会責任者		5月	
理論研究（児童実態調査分析）	教科・道徳特別活動等	研究主任		6月	
理論研究・学習会		研究主任		7月	○
統合作業		各部会責任者		7月	
理論研究・教育課程環流報告会		研究主任・各教科主任		8月	
統合作業		各部会責任者		9月	
授業案検討		授業者		10月	
統合作業		各部会責任者		10月	
授業案検討	教科・道徳特別活動等	授業者		11月	
研究授業		授業者	4年	11月	○
実践報告会		各担任		12月	
統合作業		各部会責任者		12月	
児童意識調査実施・分析		研究主任		1月	
研究のまとめ		研究主任		2月	
次年度の方向性		研究主任		2月	
統合作業		各部会責任者		3月	
研究集録作成		研究主任		3月	